

経済生活で婦人の実力をそだてましょう

ひとりびとりの努力で

△職業人としては

- 仕事に必要な技術 専門的な能力を身につける
- 自分に適した仕事をえらぶ
- 仕事に責任をもつ
- 事業を経営したり 管理したりする知識と技術をみがく

△家業にしたがうときは

- すすんで合理的な経営の工夫をする
- 大切な働きをしているという自覚をもつとともに その働きを家族がみとめあうように努力する

△内職をするときは

- 技術的なもの（洋裁・和裁・あみもの・手芸など）将来性のあるものをえらぶ
- 授産場や公共職業補導所などで 技術をならう

△家事にしたがうときは

- 家事を合理化して収入のための時間をうみ出す
- 家計は予算をたてて上手に消費し 将来にそなえて貯蓄する
- 物価・財産・契約などの知識をもつ
- 国の経済をよく知つて 良心的にお金を出す

し入れをする

協同の活動で

- 労働組合の活動をとおして 働く者の生活をたかめる
- 農業協同組合などによつて 生産者の利益をまもる
- 内職する人たちで組織をつくつて 中間で利益をかせがれないようにする
- 家事を協同化して 時間と物の節約をはかる
- 生活協同組合などによつて 消費者の生活をまもる

社会や周囲の環境をととのえて

- 職業を紹介してもらつたり相談する施設（公共職業安定所）
- 婦人をはたらきやすくする施設（乳児院・保育所・母子寮・職場の厚生施設など）
- 仕事の技術が身につけられるような施設（授産場・公共職業補導所など）
- 健康保険などの医療施設
などが数多く設けられるよう
当局に働きかける
- 物価のつり上らぬよう協力する
- 主婦や家業を手つだう人々の働きをもつと一般のひとびとにみとめさせる

婦人週間とは

日本の婦人がはじめて国会の議員を選挙したのは 昭和21年4月10日です その選挙を通じて 婦人も男子とともに政治に参加できることになりました その4月10日から一週間を「婦人週間」として婦人の地位をほんとうにたかめる運動を 労働省では 昭和24年から毎年行つて来ましたが 今年はその第6回目です

従来の婦人週間においては 主として考え方の面の近代化を強調して来ましたが 今後は婦人の実力をたかめることに重点をおき 今年はそのうち最も基盤的なものと考えられる“婦人の経済活動における実力の涵養”を目標とします

このリーフレットの増刷 転載を
希望される向は 労働省婦人少年局
又は各都道府県の婦人少年室に御連絡下さい

1954年3月 労働省婦人少年局

第6回 婦人週間



労働省婦人少年局

リーフレット No. 39

国家経済への寄与のために

5-11 3000 3400 3400

大藏省税関部外国貿易概況より

大藏省主計局